

JAAF  
MIE



# 三重陸協会報

第10号

一般財団法人  
三重陸上競技協会

事務局・〒516-0023 伊勢市宇治館町510 (三重交通Gスポーツの杜伊勢内) TEL 0596-22-8890・FAX 0596-63-5337 URL:http://mierk.jp/ MAIL:info@mierk.jp

## ごあいさつ

三重陸上競技協会 会長 田村憲久



令和の時代が始まり、早10ヶ月が経ちました。天皇陛下のご即位に関する行事を日本国内だけでなく世界中が祝福し、新しい時代の到来に注目が集まりました。

スポーツ界に目を向けてみますと、2020年の幕開けとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックの話題を見聞きすることが益々増えてきました。三重県におきましても聖火リレーが4月8、9日に10市2町で行われることが決まり、機運が高まってきました。

さて、本県の陸上競技に目を向けてみますと、昨年東京2020に関わる嬉しいニュースが届きました。9月15日に行われたMGCにおいて本県出身の中村匠吾選手(富士通)が優勝し、オリンピックマラソンの日本代表に内定しました。新国立競技場付近でのラストスパートの様子は多くの人々の記

憶に強く残っていることと思います。中村選手に続き、さらに多くの三重県選手のオリンピック・パラリンピックの出場と活躍を期待したいと思えます。

また、2020年は東京オリンピックが終わると東海地方を中心に令和2年度全国中学校体育大会が行われ、陸上競技にしましては三重県での開催となります。一昨年の三重インターハイの高校生に続き、今度は中学生の全国大会が本県で開催されることとなります。インターハイでの成功に驕ることなく、全国の中学生が活躍できる場を作ってもらいたいと思います。また、本県からより多くの選手が参加できま

## 2020年を迎えて

三重陸上競技協会 専務理事 松澤 二一



2020 TOKYO オリンピックと慌ただしくなってきましたが、今年、東海地区もそれ以上に慌ただしく、オリンピック終了後静岡でインターハイ。続いて、全日本中学陸上競技選手権大会が三重県で行われます。この大会は本県にとっては大切な位置づけの大会で、8年前の岐阜国体の年、岐阜県が陸上競技の総合優勝を成し遂げることが出来たのは少年部の強化が成功し高得点を積み重ねてきた事に由来します。その年の成年の競技力は本県とさほど違いはなかったのですが、少年部の部の上位入賞が多く、最後の400mリレーの結果で総合優勝を成し遂げました。それを目の当たりに見て、少年の強化と競技力の向上が是非とも必要であり、三重国体前年に全日本中学選手権大会を迎え次年度の国体を迎える事が最善であると考え今回の運びとなりました。(岐阜国体で活躍した選手の多くは、現在も各種大会でも好成績を残し活躍しております。)

近年、競技力の高い選手は卒業した母校中心に大学での練習を望む傾向にあり、都市部に選手が多く集まり、小さな県が総合優勝を狙うのは難しいと思います。しかし、本県は山本浩武強化委員長を中心に、県外選手の獲得も含めて成年の強化も着々と進んでおります。しかし、それ以上に着実なことは、地元選手の少年の強化が一番早く総合優勝に近づく方法です。「山椒は小粒でピリリと辛い」ではないですが小さな県が大きな名誉である「総合優勝」を虎視眈々と狙っております。小さな県でも都市圏に打ち勝つことができることを皆さんと協力して他県に負けない「強い三重県」を証明して見せましょう。そうして、喜びを分かち合いまししょう。そのためにも、インターハイに続く三重国体への第2弾となる、今年の全日本中学陸上競技選手権大会を成功させる必要があります。一昨年のインターハイで培った競技運営力を再度全国に知らしめましょう。そして、本県選手が活躍できる雰囲気づくりを行い、とこわか国体陸上競技「総合優勝」への「Winning Road」を皆さんと共に歩みましよう。

# 各地区陸協報告

## 桑員陸協

平成31年度を振り返りますと、東員町スポーツ公園陸上競技場の公認廃止により当協会にメイン事業であった公認の記録会等の開催ができなくなりました。人口規模を考えると公認の陸上競技場は必要であり、今後も各自治体においていしながら再整備に向け粘り強く要望をしていきます。

さて、東員町スポーツ公園陸上競技場は公認の陸上競技場として利用できる状態ではありませんが、器具が整備されていることから桑員地域の陸上競技の拠点として積極的な活用をしてきました。

平成31年度は例年以上に合同練習会を開催し多くの選手が利用していただいたことは喜ばしいことであります。地区内から、インターハイ、全中、ジュニアオリンピックなどにも出場する選手が増え、今後も1人でも多く全国大会に出場できる選手の育成をしていく必要があり、地区陸協全体的に鑑みるとまだまだ強化する必要があると考えています。

昨年、写真判定機等を活用し、小学生の記録を計る機会として、非公認ではありますが、記録会等も開催してきました。今後も施設を利用しながら、記録会等も検討

していきたくと考えています。また、ヴィアティン三重により施設の大規模改修がありました。施設としては綺麗になり、利用者にとって利用しやすい環境となりました。今後もヴィアティン三重と連携しながら施設の活性化に向けて協力していきたくと考えております。

昨今の課題である、陸上競技を知らない顧問の先生方が各校で一生懸命に取り組んでいる一方なかなか強化に結びつかない現状があり、合同練習会を通じて陸上競技の未経験の教員に対し指導方法を習熟させることにより質の高い練習が可能と考えられます。このことにより各校、各選手の競技力が向上されると期待されます。そのためにも、合同練習会への参加について積極的に呼びかけていきたいと考えております。

各年代層においての選手強化が課題であり、そうしたなかで来年度においても合同練習会を前年度より倍に増やし、それぞれの世代で強化を目指し、本年開催の全中及び2021年開催三重国体開催においてホスト県となることから更なる強化をおこなってまいります。

また、少子化のなか1人でも多く陸上競技者を増やし、さまざまな手法を使い陸上競技人口の増加を目指していきたくと思っております。

## 三泗陸協

1月に開催した三泗小学生タスキリレー大会を最後に本年度の競技会をすべて無事終了いたしました。ソフト面では、中学生、高校生を中心にして多くの生徒が三重県代表として全国大会に出場し健闘してくれました。沖縄県で開催された夏の全国高校総体においては、三泗地区から8種目のべ12名の選手が参加し、男子100mにおいては四日市工業高校の林君が見事2位に入賞しました。全国定時制通信制大会においては、大橋学園高校の岡君が男子三段跳で見事優勝しました。また、全国中学大会には5名の生徒が出場し健闘しました。冬の全国高校駅伝大会には、県大会で優勝した四日市工業高校・四日市商業高校が出場しました。四日市工業高校のチームは三重県高校最高記録で15位と大健闘しました。また、全国中学駅伝大会には県大会で優勝した川越中学女子のチームが出場し健闘しました。ハード面においては、昨年7月から始まったメイン競技場の大改修が順調に行われており、9月後半には完成の予定です。10月からは利用が可能となり、東海高校新人大会の開催も予定されています。ただ、昨年同様競技場をほとんど利用できない状況から、今年も競技会については鈴鹿市や東員町のご協力をいただいで少数

ではありますが実施を計画していません。なお、四日市中学校カーニバルについては今年も6月に開催を計画しています。非公認大会とはなりますが、この大会で出した記録は今回も県中学通信大会の参加標準記録としては認めていただけですので、大いに活用していただきたいと存じます。また、2021年3月には四日市市でハーフマラソン大会が開催される予定です。今後も四日市市のご理解・ご支援のもと陸上競技を愛好する方々に愛着を持っていただける施設になるよう取り組んでいきます。

三泗地区の中学校において約半数の学校に陸上競技部がない現状をふまえ、今までもいくつかのクラブチームが、学校でクラブをしようとできない生徒たちを対象に熱心な活動を行ってきたおかげで一定の成果をあげてきてくれました。まだまだ課題は山積していますが、生徒たちが少しでも陸上競技に打ち込めるよう創意工夫を重ねながら、普及の面においても取り組んでいきたい所存です。また、小学校関係においては、今年もキッズアスリート陸上教室の開催を計画しています。

運営に支障をきたさないかどうか心配なシーズンでしたが、皆様方のご協力で無事に開催することができました。

2019年度の活躍に目を向けるとシニアの部では衛藤 昂選手（白子中↓鈴鹿高専↓味の素AGF）が2m30の自己タイ記録で世界選手権標準記録を突破し、3大会連続で世界選手権に出場しました。2020年シーズンでは東京オリンピックでの活躍が期待されます。

高校生では沖縄インターハイで稲生高校の三井 康平（3）選手が昨年来のライバルである鴨澤選手（宇治山田商業）に同記録ながらセカンドベストで優勝という大活躍をしてくれました。同じく稲生高校から岩本 乙夏（2）選手も2年生ながら砲丸投で8位入賞しました。また、白子中学から四日市工業高校に進学した林 哉太（3）選手が100mで見事2位に入賞しました。茨城国体でも400mR三重県チームの第二走者を勤め2位入賞に貢献しています。

中学生では、全日中に平田野中学校から松本 未空（2）選手が三重県新記録で4位に入賞しました。また、鼓ヶ浦中学校から男子400mRで前田（2）、渡辺（3）、秋田（3）、久保（3）の4選手、個人では男子200mで渡辺 悠斗（3）、800mで鈴

木 亜成（3）選手、白子中学から女子100mで松原 美空（3）選手、100mと200mで清水 彩加（2）選手が出場しました。

さらに全国中学駅伝には白子中学校が2年連続で出場し、三重県勢としては過去最高順位の4位で入賞しました。特に1区の倉本選手は全日中の参加を逃した悔しさをその後の記録会で3000m 8分27秒92の三重県新記録の樹立。この記録は本年度の中学ランキング日本トップの記録であり、実力通り全国駅伝で1区の区間賞と見事な活躍を見せてくれました。

また、長距離に関しては鈴鹿市内の強化も順調に進んでおり、県大会では男女ともに多数の入賞者を輩出し、都道府県駅伝では昨年に引き続き男子2区に白子中学校の倉本 晃羽（3）選手、4区に鼓ヶ浦中学出身で四日市工業高校の山中 秀真（3）選手が出場し、三重県新記録での8位入賞に貢献しました。女子では8区に平田野中学校の松本 未空（2）選手が選出され活躍してくれました。

これらの活躍も現場の指導者をはじめ関係団体のお力添えのためものと深く感謝いたしております。特にAGF鈴鹿株式会社様には強化選手の確保だけではなく、小学生大会地区予選時に参加者全員にTシャツのご提供、通信大会では東海大会に進んだ中学生

## 鈴鹿陸協

東員町競技場の公認切れや中央緑地競技場の改修により鈴鹿への競技会の参加人数が増えることで

東員町競技場の公認切れや中央緑地競技場の改修により鈴鹿への競技会の参加人数が増えることで

東員町競技場の公認切れや中央緑地競技場の改修により鈴鹿への競技会の参加人数が増えることで

東員町競技場の公認切れや中央緑地競技場の改修により鈴鹿への競技会の参加人数が増えることで

東員町競技場の公認切れや中央緑地競技場の改修により鈴鹿への競技会の参加人数が増えることで

選手全員にTシャツ、顧問にはポロシャツをご提供いただき、選手共々チーム鈴鹿として大変モチベーションを上げることが出来ました。普段の練習会でもドリンクを提供いただき、選手の育成に大変な貢献をいただいています。

新年度も鈴鹿陸協発展のために皆様のお力添えを賜りますようどうぞ宜しくお願いいたします。

### 亀山陸協

昨年は亀山市在住、在校の中・高校生が競技会で大活躍をしてくれました。中学生では亀山中部中学校の「中山智貴さん」が100mを10秒62の全国現役1位(歴代2位)の記録を出し、国民体育大会・少年男子B100m(8位)、ジュニアオリンピック陸上競技大会・男子A200m(優勝)、全日本中学校陸上競技選手権大会・男子100m、同200m(優勝)に、また女子でも亀山中学校の「森口和果さん」が全日本中学校陸上競技選手権大会・女子走幅跳に、三重大付属中学校の「林千華さん」がジュニアオリンピック陸上競技大会・女子C800mに、高校生では高田高校の「浅野太心さん」が全国高等学校陸上競技対校選手権大会・男子800mに、亀山高校「小川エンリケさん」が同大会・男子走高跳に、それぞれの予選会を勝ち進み見事全国大会に出場されました。

小学生でも昨年三重タスキリレー女子の部で優勝した「JAC亀山」、その所属選手たちも多数上位入賞し、東海大会でも入賞するなどクラブ内の雰囲気の高まりを感じます。また、その出身者が高校さらには大学でも活躍されています。本人の努力を称えるとともに、日頃から健全育成も含め児童、生徒の指導に当たられている指導者や先生方に敬意と感謝をしている次第です。今年三重で開催されます全日本中学校陸上競技選手権大会や来年の国民体育大会に向けて大きな期待が持てます。

また、「美し国三重市町対抗駅伝」で亀山市は昨年過去最高順位の5位に入賞しました。小学生から大学、一般まで繋がるチーム力を発揮し、今年こそメダルを目指して出場しました。

小さな協会ですが市内小学生の陸上競技大会、スポーツ少年団体の駅伝大会、市内の駅伝大会等を開催しています。2月9日に開催した亀山市駅伝競走大会は今年で第66回となり歴史ある大会です。自治会、事業所、一般の3部門に33チームの参加があり盛大に開催することができました。これらの行事も地元亀山高校の生徒や先生方を始め各種団体や地域の方々の献身的なお手伝いをいただいで運営できており感謝しています。

なお、毎年1月に開催してありました「江戸の道シティマラソン大会」はお陰様で多くのランナー

の参加をいただいできましたが、それに応じた運営体制や安全対策など見直しが必要との事から休ませていただくこととなりました。より良い形でリニューアルして開催できれば思っております。

今年はいよいよ全中大会、来年は三重国体です。活躍できる選手の育成に各団体とさらに連携を深めていきます。



【亀山市スポーツ少年団駅伝大会：スタート】

### 津陸協

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。

令和元年度(平成31年度)を振り返ると、沖繩インターハイ男子円盤投で三井康平さん(稲生高)が優勝し、全国大会では植松直紀さん(スズキ浜松AC)、日本選手権男子ハンマー投)、田口雄暉さん(津東高、国体少年共通男子三段跳)、藤本大輝さん(皇學館高、国体少年A走幅跳)、樋口七海さん(美杉中、JO女子A200m)が入賞するなど、津市および津市出身の選手が活躍してくれました。

また、3月8日(三重陸協総会の日)には名古屋ウイメンズマラソンが開催されます。東京オリンピック女子マラソン代表の最後の1枠を目指して津市出身の岩出玲亜さん(アンダーアーマー、一志中卒業)が、出場します。男子マラソン代表の中村匠吾さんに続いて女子マラソン代表になるよう、快走を期待しています。

津地区では、平成29年度から市内の中学校が『みんなで強くなるうー』をスローガンとして、合同練習をしています。直近では、3月に合同練習を予定しています。この取り組みが、津地区での陸上競技の普及・強化につながれば、と思います。

津地区には、公認の陸上競技場がなく、元年度も鈴鹿、四日市、松阪、伊勢度会など多くの地区陸協様から暖かいご配慮をいただく中で、大会や記録会を開催させていただきました。心よりお礼申し上げます。

津市内への競技場新設は、今も大きな希望です。さらに粘り強く要望を続け、東京オリンピック・三重全中・三重国体に向けて、中高の連携を深め、さらに陸上競

### 松阪地区陸協

技の普及・強化に努めていく所存です。

松阪地区陸協は規模が小さく、審判員等も決して人数が多いわけではありませんが、各学校・団体の方々のご協力により今年度も多くの活動の実施や運営を行うことができました。また、今年度も各学校・団体の指導者の方々のご尽力により、多くの成果をあげることができました。小学生チームの活動も盛んになってきています。さらに今年度は伊勢度会地区・鳥羽志摩地区との小学生の合同大会を多くの関係者のご協力により伊勢の競技場で開催できました。保護者の方や小学生の選手には使いやすい、新しい競技場での開催で大好評でした。5月には毎年開催している小学生陸上教室を三雲中学校の選手に協力をいただき開催しました。こちらも多くの小学生の参加がありました。さらに今年度は松阪地区内の小学校でキッズアスリートも開催していただき、小学生のみならず、先生方からも大好評でした。今後の松阪地区の陸上競技がさらに盛り上がっていくことが期待できます。中学生・高校生も活躍してくれています。

松阪商業高校や三重高校などを中心に多数の選手が全国大会に出場し、入賞を果たすなど多くの成果を残してくれました。数年前から

今年度は濱口紀子選手(松阪商業高)が全国高校選抜大会において女子四種競技で大会新記録での優勝、澤井風月選手(嬉野中)の女子1500mでの三重県中学校新記録の樹立があり活躍が目立ちました。全国大会では、床辺彩乃選手(松阪商業高)・西井琳音選手(三重高)・澤井風月選手(嬉野中)・坂山成選手(多気中)・鈴木千翔選手(久保中)の入賞がありました。地元の高校生の活躍や、元氣な活動が地元の新聞などに大きく取り上げていただくことも多く、中学生や小学生の選手や指導者のやる気をさらに増大させているように感じています。今後も松阪地区の陸上競技の普及をすすめ、三重で開催される全中と国体に向けてさらなる強化に努めていきたいと思ひます。

### 伊勢度会陸協

今年度は小中学校で歴史的な記録が誕生しました。中学校では「伊勢港中学校」の世古綾葉さんが三重県女子中学生で初の100m 11秒台となる11秒99の三重県中学

新記録を樹立。世古さんは8月に大阪で行われた全日本中学選手権でも100mで6位に入賞。世古さんをアンカーに据えた伊勢港は女子4×100mRでも小林玲那さん・木下奈々花さん・廣村結さん・世古さんとなついで48秒19のこれも三重県中学新記録で4位に入賞しました。

小学校でも「いすずUK」の北尾心映さんがこれまでの女子100m三重県小学記録を大幅に更新する12秒67で全国小学生交流大会でも見事に優勝を飾りました。この大会では同じく「いすずUK」の中田陽菜さんが女子コンバインドBで2位に入賞する活躍でした。

これに負けじと高校でも沖繩インターハイで「宇治山田商業高校」の鴨澤青海くんが男子円盤投で優勝と同記録の2位、「伊勢高校」の松井駿斗くんが男子棒高跳、「伊勢工業高校」の山川混心くんも男子ハンマー投でそれぞれ2位に入賞。「皇學館高校」の大井悠くんが男子八種競技で、「伊勢工業高校」の中村竜成くんが男子やり投でそれぞれ4位、玉城中学校出身の「松阪商業高校」床辺彩乃さんが女子砲丸投で6位、五十鈴中学校出身の「三重高校」西井琳音さんが女子円盤投で8位に入賞しました。

大学生でも玉城中学校出身の「中京大学」飯島あかりさんが女子七種競技で三重県新記録を樹立

し日本学生対校選手権(日本IC)で3位に入賞するなど各世代で活躍してくれました。

本協会が主催する大会も今年度50回を数え半世紀を超える歴史を持つことになった「南勢駅伝」をはじめ、「伊勢度会選手権」は再来年度には70回大会を迎えます。新しい大会も誕生しておりますが、これまで培ってきた伝統を踏まえ、より一層すばらしい協会に成長していけるよう今後ご協力をお願いします。

### 鳥羽志摩陸協

鳥羽志摩陸協では、昨年同様、「陸上競技の普及」「選手の育成・強化」「若手指導者の育成」「地域のクラブチーム、小中学校との連携、さらには他競技との連携」を

今まで以上に図っていくことを柱に、一人でも多くの選手がIH・全日中、国体で活躍できるように令和元年度の活動を進めてまいりました。

その中で、宇治山田商業の鴨澤君(文岡中出身)が、男子円盤投で沖繩総体2位(1位と同記録)、U20日本陸上競技選手権(広島)では見事に優勝し、昨年の三重インターハイでの上位入賞に続き活躍がみられた年となりました。これらの活躍は、市内各クラブチーム、小・中学校時代の指導に続く三重陸協の皆さまや顧問の先生方のご尽力があつたことだと思

ます。この場をお借りし、選手育成に携わっていただいた皆様にお礼申し上げます。

さて、令和元年度の鳥羽志摩陸協の特徴的な活動を3つ紹介させていただきます。

最初に28年度から実施している「出前陸上教室」の開催です。地区内の小学校4校、志摩市の幼稚園1園を訪問し、児童や園児の皆さんに「走る・跳ぶ・投げる」ことの楽しさを感じてもらうことができました。また、新たな試みとして、鳥羽市内の小中学校より体育の授業の中に陸上競技の出前指導の時間を導入してほしいとの依頼を受け、学期ごとに低学年と高学年に分け、1学期「導入」・2学期「実践」・3学期「まとめと次年度に向けて」の目的設定を行い、実施しました。1学期に比べると、あきらかに子どもたちの動きが変わり、6年生の生徒の中には「中学校に行ったら陸上部に入りたい!」「他の部活に入っても特設の陸上部に入って大会に出たい!」といった声も多くなりました。令和2年度はさらに踏み

込んだ形での実施も検討しています。

次に、小学校教員を対象にした審判講習会・実技講習会の開催です。地域との連携も計りながら、陸上競技の楽しさを伝える活動ができました。また、例年通り志摩市・鳥羽市の小学校陸上記録会へ審判を派遣する事もできました。

最後に合同練習会の開催です。特に毎年恒例となつた国府の浜での砂浜やクロスカントリーを活用した冬季合同練習会につきましては、250名ほどの地区内外の選手(特に小学生チームの参加が増)が参加し、盛大に実施する事ができました。多くの小学生選手たちが、この練習会を通じて競い合う事だけでなく、県内で陸上をする仲間としての繋がりも持つことができています。

**ご協賛をいただいた企業**

- 更スポーツ
- スポーツショップ四日市
- ぎゅーとら
- NTN株式会社
- 株式会社デンソー
- 長谷川体育施設株式会社
- アシックスジャパン
- 株式会社 ニシ・スポーツ
- 株式会社 クレーマージャパン
- 岐阜協立大学
- 皇學館大学
- AGF 鈴鹿株式会社
- 日本体育施設
- ミズノ株式会社
- 三重県民共済
- ユタニペーカー

(敬称略)

**日本陸上競技連盟栄章**

茨城国体期間中、平成30年度優秀指導者等の表彰が行われました。

- ◇ 秩父宮章  
坂元 均 (常務理事)
- ◇ 高校優秀指導者章  
長屋 憲明 (四日市工業高校)
- ◇ 中学校優秀指導者章  
竹内 慎一郎 (三雲中学校)
- ◇ 高校優秀選手章  
川合 隆誠 (三重高校)
- ◇ 中学校優秀選手章  
山田 真大 (三雲中学校)

最後に合同練習会の開催です。特に毎年恒例となつた国府の浜での砂浜やクロスカントリーを活用した冬季合同練習会につきましては、250名ほどの地区内外の選手(特に小学生チームの参加が増)が参加し、盛大に実施する事ができました。多くの小学生選手たちが、この練習会を通じて競い合う事だけでなく、県内で陸上をする仲間としての繋がりも持つことができています。

完了し、学校数も大きく減少しました。しかし、クラブチームに所属する小学生の人数は増加傾向にあり、過去最多の人数となっております。これは、指導者の方々の努力の賜物であり、陸上競技への最初の窓口である、普及に力を入れてきたことが効果を発揮しているものと思います。ただし、児童・生徒数の減少にストップがかつたわけではなく今後、競技者が減少していてもおかしくない状況にあります。さらに、中学校では部活動の時間短縮等の課題もあり、地区陸協としても中学校やクラブチームとの連携を密にし、バックアップ体制を構築し推進していくことが必要と感じております。

### 伊賀陸協

伊賀市陸上競技協会では、本年度も審判登録人数が非常に少ないなかですが、地域の方々に支えられて、なんとか競技役員の確保や協会運営の充実を図っています。

また、近年は県内外の学校に国府の浜(志摩市)で合宿を開催していたとき、地元の方々からも、「選手が来てくれると地域が活性する」「今日はどこの学校が来ているの?」との声もいただいております。紙面をお借りし、関係者の皆様に地域活性に貢献していただいていますことをお礼申し上げます。

令和2年度は、引き続き「陸上競技の普及」「選手の育成・強化」「若手指導者の育成」「地域のクラブチーム、小中学校との連携、さらには他競技との連携」「現役指導者のスキルアップ」を推進していきます。

昨年度も記載しましたが、鳥羽志摩地区において、少子化の問題は深刻な問題です。児童・生徒数の減少に伴う小中学校の統廃合が

令和2年度は、引き続き「陸上競技の普及」「選手の育成・強化」「若手指導者の育成」「地域のクラブチーム、小中学校との連携、さらには他競技との連携」「現役指導者のスキルアップ」を推進していきます。

伊賀市陸上競技協会では、本年度も審判登録人数が非常に少ないなかですが、地域の方々に支えられて、なんとか競技役員の確保や協会運営の充実を図っています。

学校混合4×100mRでは、ゆめが丘RCが全国小学生交流大会にて7位入賞する輝かしい成績をおさめるほか、個人でも高島誉選手や花本夏菜選手が、友好1000mで活躍するなど、この全国の経験をいかしさらに大きく成長していただきたいと思います。

今年度沖縄で開催された全国高校総体では、伊賀白鳳高校の選手男子2名が1500m、上野高校の選手男子が砲丸投で全国大会に出場し活躍しました。また高校駅伝では伊賀白鳳高校は、県大会では惜しくも敗れましたが、東海大会で見事優勝を勝ち取り白鳳高校が16年連続31回目となる全国出場を決めました。伊賀白鳳高校出身の選手は、箱根駅伝や都道府県駅伝等でも活躍がめまぐるしく、今回の中村匠吾選手のように、一人でも多くの選手が世界に羽ばたいてほしいものです。

中学校においては、緑ヶ丘中学の松岡大夢選手が、1000mと110mHで全日本中学校陸上競技選手権大会に出場し活躍しました。今後、高校進学後の活躍も楽しみな逸材です。中学校10校中、陸上競技部がある学校が少なく、小学校で実績のある児童生徒が中学進学後に陸上競技を選択できない傾向にあり、クラブチームが強化・普及になんとかぎりぎり力を注いでいる状況になっていきますが、なんとか皆様のお力を賜りますようお願いいたします。

ます。地域過疎化が進み年々子どもたちの人口が減少していくなかで、陸上競技の選手の確保や、指導者の確保、市内全体として中学校の活性化を図り、来る全中や国体に臨んでいきたいと考えております。

### 名張陸協

名張市陸上競技場・メイハンフィールド・全天候性トラック4種公認グラウンドが一昨年度に完成をしました。昨年度は、三重県内だけでなく滋賀・大阪・京都の近隣県からたくさんの選手が来てくださり好記録を出していただきました。多い時には1200人の選手が来場していただき慣れない電気に計時に冷や汗をかきながら名古屋から毎回駆けつけてくださるニシスポーツの営業統括部の方のお力



をお借りしながら無事に8回の記録会を終えることができました。この紙面をお借りしてご参加してくださった選手や監督コーチの皆さんにお礼を申し上げます。また、審判や補助員をしてくださった皆様にも感謝しております。

男子1000mの部も川喜多剛志選手が10秒80(+1.1)の好記録で力走してくれました。このグラウンドでの10秒台は初めてのことで観衆を沸かせていただきました。マスターズの部では、W40歳の部で坂本喜子さんが9分37秒96の日本記録を樹立していただきました。今年で2年目を迎えるメイハンフィールドでの試合は、4月26日、5月24日、6月21日、7月26日、8月23日そして8月10日にはナイター記録会も予定しています。ナイター設備も充実しており、また駐車場も5000台が収容できま



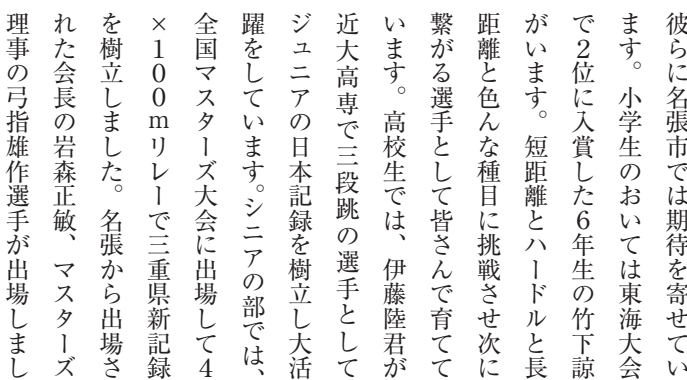
す。今年も皆さんの参加をお待ちしております。詳しいことは名張市陸上競技協会ホームページをご覧ください。

名張市陸上競技協会は今年で53年目を迎えます。この恵まれた環境の中で名張市陸上競技協会として名張市小学生陸上教室が年間24回開催しています。陸上協会の若い指導者を中心に隔週2回午後2時から4時までメイハンフィールドで行っています。また、低学年(小学生1・2年生)を対象にキッズ陸上教室も行っています。この子どもたち以外に昨年度から設立された特定非営利活動法人アクティブ名張スポーツクラブ「ぱりっこクラブ」でも活動場所を確保して指導されてます。ここでは、5歳から高校生までが毎週火曜日・水曜日選手コースとして金曜日に行っています。



時間の練習時間で主に全身運動やバランス感覚を大事にしながら指導されて金曜日には、専門的にその種目に合わせて個々の練習メニューを行っています。シニアの部では、月曜日は近大高専で木曜日はメイハンフィールドで練習を行っています。若い子たちと一緒にわいわい言いながら健康寿命を伸ばし皆さん名張市の医療費削減に貢献中です。

今年、三重県で全国中学校陸上選手権大会が伊勢の地で8月17日から行われます。名張市の選手の中では、短距離の永安正弥が現在中学2年生の部でランキングトップで優勝を狙っています。次に、110mハードルの岡崎煌選手がいます。彼らは昨年三重県代表で等々力競技場で行われたジュニアオリンピックに三重県代表で出場しました。今年3年生となる彼らに名張市では期待を寄せています。小学生においては東海大会で2位に入賞した6年生の竹下諒がいます。短距離とハードルと長距離と色んな種目に挑戦させ次に繋がる選手として皆さんで育てていきます。高校生では、伊藤陸君が近大高専で三段跳の選手としてジュニアの日本記録を樹立し活躍をしています。シニアの部では、全国マスターズ大会に出場して4×100mリレーで三重県新記録を樹立しました。名張から出場された会長の岩森正敏、マスターズ理事の弓指雄作選手が出場しまし



た。記録は、W70歳の部で56秒30でした。女子の部でも外国選手を相手にして走幅跳優勝の徳地和子(三重マスターズ会長・名張市陸協理事長)選手がいます。

令和2年1月25日には、名張の地形を利用してマラソン大会も開催しました。入賞者3位までには、名張市特産物の伊賀米、薄皮で評判の名張まんじょう、忍者が携帯していたかたやきを準備して行いました。山あり谷あり車も通行止めにして車道を走れるコースで皆さんに楽しんでいただきました。遠くは、四日市からも参加して盛り上げていただきました。このように名張市陸上競技協会は、選手を大切にしながら参加者全員が走ることを「楽しいな」と思えるように皆様に参加して若い力爆発できる環境づくりを目指してオリンピックイヤーの歳を盛り上げていきたいと思っています。

### 尾鷲陸協

尾鷲市は過疎化と少子化が進み、街の活気が年々失われつつあります。また、少子化の波は、陸上競技人口の減少につながっている現状もあります。尾鷲陸協としては、弱みを強みに替え、「地域の子は地域で育てる」を合言葉に、小学校から高校まで陸上競技を継続できる環境づくりや、他のスポーツを行っている者が、気軽に陸上競技に触

れ合う機会を提供し、新たな選手  
の発掘を行っていくことが急務で  
あると考えています。

県民が注目する「美し国三重市  
町対抗駅伝」では、尾鷲市は毎年  
のように下位を低迷し、尾鷲市民  
や出身者の期待に応えることがで  
きませんでした。この現状を打開  
するため、2年前から尾鷲市長距  
離選手権を開催し、陸上競技を  
行っている者に限らず、尾鷲市民  
が気軽に参加できるような大会を  
行っています。小学生では、野球・  
水泳・サッカー・バスケットを行っ  
ている者も参加し、陸上競技に興  
味・関心を持ってもらう機会にも  
なりました。結果につながるまで  
には、時間がかかりそうですが、  
このような地道な活動を継続し、  
いつの日か尾鷲市民や出身者の期  
待に応えていければと思っていま  
す。

尾鷲陸協は小さな組織ですが、  
地域に根ざして、陸上競技を通し  
て街に明るい話題を提供し、街の  
活気が取り戻せるよう、今後も頑  
張ってまいります。

### 北牟婁陸協

極小規模な北牟婁陸協ですが、  
明るい話題がいくつかりありまし  
た。

一番大きな話題としては「美し  
国三重市町対抗駅伝」が挙げられ  
ます。過去1度もアンカーまでつ  
ながったことが無かった樽をつな  
いだ上で、前年と同じ過去最高の

3位入賞を目指すというチーム目  
標を、区間賞が1つも無い中（前  
年は区間賞3）で過去最高タイム  
を1分以上更新して達成できたこ  
とです。

二番目に大きな話題としては、  
濱口紀子（松阪商業高校3年〔紀  
北中学校出身〕）が、長期間に渡  
る故障から回復し、入賞はできな  
かったものの七種競技で沖繩イン  
ターハイ出場を決めたことと、大  
阪で行われた全国高校選抜大会に  
おいて、得意の四種競技で大会新  
記録で優勝を決めたことが挙げら  
れます。

他には、紀北中3年生の濱田茉  
裕が、砲丸投で東紀州地域では男  
女通じて初となる全中出場を決め  
たことが挙げられます。東海中学  
陸上において3位に入賞すること  
もできました。その影響を受け、  
紀北中1年生の世古櫻紗が投擲で  
力をつけてきていて、1年生の全  
国ランキングで砲丸投が3位、円  
盤投が2位の位置にいますので、今  
後の活躍が非常に楽しみです。

懸念材料として、地区内の過疎  
化に拍車がかかり、人材を確保す  
ることがどんどん困難な状況にな  
ってきていることが挙げられま  
す。しかし、合同練習会の実施や  
県や他地区の練習会への積極的な  
参加、尾鷲高校の垣内元宏先生が  
指導する紀北ACCの活動、小学校  
への出前授業の実施等で強化普及  
に対応しているところです。  
今後も、明るい話題を少しでも

### 熊野陸協

多く提供できるように頑張ってい  
きたいと考えております。

現在、熊野RCには、小学生・  
中学生・高校生・一般まで92人の  
選手が所属しています。練習は、  
主に小学生が毎週土曜日の夕方に  
熊野市営グラウンドや木本中学校  
グラウンドで、毎週水曜日の夜に  
は木本中学校グラウンドで行って  
います。また、随時、木本中学校  
グラウンドで高校生・中学生が中  
心にナイター自主練習を行ってま  
す。さらに、毎週木曜日を中心に、  
「熊野マラソン塾」と称して、美  
し国三重市町対抗駅伝長距離の選  
手を中心に長距離走の練習をして  
ます。

本年度は、陸上部がない木本高  
校の選手（曾越大成）が、三重県  
高校新人大会男子3000m S C  
で優勝、5000mで4位に入賞  
し、東海高校新人大会に出場しま  
した。

また、中学生では、三重リレー  
カーニバル男子4×1000m Rで  
2位に入賞しました。個人で  
は、通信陸上大会で福田  
昂太（飛鳥中3年）が男  
子1000m 2位、岳野迪  
也（木本中3年）が男子  
1100m H 3位、中田桜  
（飛鳥中3年）が女子棒  
高跳で5位に入賞しまし  
た。さらに、鈴木彩（木  
本中3年）が女子円盤投

4位に入賞するなど、中学生も活  
躍しています。  
小学生では、三重リレーカーニ  
バルで、清水煌生（金山小6年）  
がジャベリックボール投6位、  
小西まゆ（阿田和小6年）が、女  
子ジャベリックボール投で4位、  
熊野市大会は、福田健吾（飛鳥  
小3年）男子3年生60mで3位、  
小西まゆが、女子コンバインドB  
で5位に入賞しました。そのほか  
の大会でも、熊野から多くの選手  
が出場し、活躍しました。  
また、本年度も、外部より講師  
を招いての「陸上教室」を数回開  
催し、多くの方に参加していただ  
きました。  
陸上部のある中学校・高校が少  
ないことと、指導者が少ないこと  
が課題ですが、お互いに連絡を取  
り合いながら小学生・中学生・高  
校生と継続的な指導ができるよう  
にしています。今後も、熊野市南  
牟婁郡地区で陸上競技の輪を広げ  
られるように、熊野陸協として「熊  
野RC」を軸に活動していきたいと  
考えています。

## 各委員会等報告

### 競技委員会



### 強化委員会



全国大会第2弾、全日本中学大  
会が8月に実施されます。一昨年  
前の全国高校総体の運営では、全  
国の皆様より多くの「お褒め」の  
言葉をいただきました。今回の全  
日中大会も是非、「三重に来て良  
かった」と言っていただけるよう、  
各部署が「選手ファースト」での  
運営準備をお願いいたします。伊  
勢市をはじめ各方面の計らいによ  
り、補助競技場に初めての大型テ  
ントも設置される予定です。全日  
中大会としては初めての事と何っ  
ております。  
「全国高校総体を経験したから  
大丈夫」と言う声があります。決  
して100%の補償があるわけで  
はありません。審判員の心構えで  
ある「選手のために」「ルールに  
精通する」毅然とした態度で「多  
くの方から見られている」「勝手  
な判断をしない」などいくつもの  
心得があります。初心に戻るべく  
全国の選手を迎え、全力を出し切  
れる環境を整えてあげたいもので  
す。  
県内競技会につきましては、い  
くつかの変更点があります。大会  
要項を熟読していただき、間違い  
の無いよう申し込んでください。

本年度の茨城国体は10月4日  
（金）～8日（火）茨城県笠松運  
動公園陸上競技場でおこなわれま  
した。選手一人ひとりが粘り強く  
戦い、男子12種目・女子3種目、  
男子リレーの計16種目に入賞を果  
たしました。  
成年では400mの川端魁人選  
手（中京大）が自己新記録の好走  
で見事に第3位入賞。1100m H  
の藤井亮汰選手（三重県体育協  
会）も三重県新記録で第4位入賞。  
全日本インカレで16m 34のU 20日  
本記録を樹立した三段跳の伊藤陸  
選手（近大高専）も再び16m台の  
ジャンプで第5位入賞。砲丸投の  
村上輝選手（日本体育施設）も自  
己タイ記録で第4位入賞。女子で  
は1000mの名倉千見選手（NT  
N）が今シーズン一番の好走で第  
6位に入賞してくれました。  
少年ではインターハイ優勝の三  
井康平選手（稲生高）が円盤投で  
貫禄の第2位入賞。ハンマー投で  
も山川混心選手（伊勢工高）がイ  
ンターハイに続き第2位入賞。以  
上の2名を筆頭に10名が入賞を果  
たしてくれました。また、砲丸投  
の床辺彩乃選手（松阪商高）は中  
学時代から4年連続入賞と得点に



曾越大成選手（木本高）

貢献してくれました。少年種目を末広がり活躍させる事は強化の大きな狙いでもあり、今後に向けて非常に頼もしく思います。大会最後の男子4×100mRでは成年選手2名に、全日本中学2000m優勝の中山智貴選手(亀山中部中)、インターハイ1000m第2位入賞の林哉太選手(四日市工高)の少年選手を加え、予選・準決を着実にクリアし、決勝に挑みました。決勝ではアンカーの矢橋寛明選手(ヴァイティン三重RC)が5番手あたりから激走で猛追、優勝に100分の1秒差の第2位入賞、三重国体優勝に向けて目標も定まってきました。

天皇杯では三重国体に向け、拍車のかかる73点の得点で第12位となりました。皇后杯は19点の第32位と低迷しましたが、強化は確実に前進しています。

都道府県駅伝は男子が三重県最高記録で8位入賞を果たしてくれました。1区は中位でスタート、2区の倉本晃羽選手(白子中)が区間8位、3区の西山雄介選手(トヨタ自動車)も区間7位の力走。後ろ2名の高校生も徐々に9位まで順位を押し上げ、入賞圏内に。その後は一時13位まで順位を落としたが、アンカーの塩澤稀夕選手(東海大)が区間8位の快走。入賞をかけたラスト勝負にも競り勝ち見事8位入賞を果たしてくれました。女子は昨年よりタイム・順位共に上げ29位という結果でした。1、2区は中位でスタート、3区の澤井風月選手(嬉野中)が区間4位の激走、4区の川北陽菜選手(デンソー)も区間11位の快走を見せ一時は18位まで順位を押し上げてくれました。最終的には29位でしたが、故障選手がある中で健闘していただきました。

中長距離は本年度、川瀬翔矢選手(皇學館大3年)が5000mで13分36秒93の三重県新記録を樹立。塩澤稀夕選手(東海大3年)も10000mで28分16秒17の好記録。全国中学駅伝では白子中学が見事4位入賞。特に倉本晃羽選手(3年)は3000mで本年度全国中学ランキングトップの8分27秒92を記録しています。全国高校駅伝男子では四日市工業高校と伊賀白鳳高校の2校が出場を果たし、四日市工業高校が2時間03分50秒の三重県最高記録を樹立してくれました。

女子では澤井風月選手(嬉野中3年)が全日中の1500mで3位入賞。松本未空選手(平田野中)も2年生ながら800mで4位入賞を果たしてくれました。最近課題が多かった中長距離の機運が非常に高まってきており頼もしく感じます。今後さらにステップアップして三重国体でも大活躍してほしいと思います。

強化委員会としましては三重国体に向けて成年、少年に分けて対策を進めています。成年は現有戦力の維持と強化、新戦力の獲得が

### 令和元年度国体・都道府県対抗駅伝報告

#### 第74回 国民体育大会 (いきいき茨城ゆめ国体) 10/4(金)~8(火) 茨城県笠松運動公園陸上競技場

- 2位 少年男子Aハンマー投  
山川 滉心(伊勢工高) 65m44 三重県高校新
- 少年男子共通円盤投  
三井 康平(稻生高) 51m11
- 成少男子共通4×100mR 三重 40秒02  
中山 智貴(亀山中部中) - 林 哉太(四日市工高) -  
川端 魁人(中京大) - 矢橋 寛明(ヴァイティン三重RC)
- 3位 成年男子400m  
川端 魁人(中京大) 47秒43  
※予選において46秒94の自己新を記録
- 4位 成年男子110mH  
藤井 亮汰(三重県体育協会) 13秒85 (-0.2)  
※予選において13秒63(+1.9)の三重県新を記録
- 成年男子砲丸投  
村上 輝(日本体育施設) 17m47自己タイ
- 5位 成年男子三段跳  
伊藤 陸(近大高専) 16m02 (+2.1)
- 少年男子共通走高跳  
本田 基緯(近大高専) 2m06

- 少年男子共通三段跳  
田口 雄暉(津東高) 15m13 (+2.4)
- 少年女子共通砲丸投  
床辺 彩乃(松阪商高) 13m67
- 6位 成年女子100m  
名倉 千晃(NTN) 11秒94 (+1.1)
- 7位 少年男子A100m  
林 哉太(四日市工高) 10秒92 (-2.3)
- 少年女子共通円盤投  
西井 琳音(三重高) 40m41
- 8位 少年男子A走幅跳  
藤本 大輝(皇學館高) 7m19 (+2.9)
- 少年男子Aやり投  
中村 竜成(伊勢工高) 61m78
- 少年男子B100m  
中山 智貴(亀山中部中) 11秒30 (-1.1)

天皇杯 第12位 73点

皇后杯 第32位 19点

#### 皇后盃 第38回 都道府県対抗女子駅伝 第29位 2時間23分03秒

#### 天皇盃 第25回 都道府県対抗男子駅伝 第8位 2時間18分50秒

女子	令和2年1月12日	12時30分スタート	たけびしスタジアム京都発着			
総合	総合	第29位	2時23分03秒			
監督	山本 顕(宇治山田高)					
コーチ	相浦 亮(デンソー) 水野 智正(四日市商高)					
区間	距離	名前	所属	記録	区間	通過
1区	(6K)	松本 夢佳	デンソー	20:00	25位	25位
2区	(4K)	森林 未来	デンソー	13:08	27位	28位
3区	(3K)	澤井 風月	嬉野中・3年	9:41	4位	22位
4区	(4K)	川北 陽菜	デンソー	13:18	11位	18位
5区	(4.1075K)	井山 一佳	宇治山田商高・1年	14:50	46位	25位
6区	(4.0875K)	森田日世莉	桑名高・1年	14:16	40位	31位
7区	(4K)	藤本 直	四日市商高・2年	13:47	35位	32位
8区	(3K)	松本 未空	平田野中・2年	10:28	16位	31位
9区	(10K)	池内 彩乃	デンソー ※主将	33:35	26位	29位
選手		加藤 綾華	名城大・3年			
		近藤 萌子	四日市商高・2年			
		畑 まどか	宇治山田商高・1年			
		栢田日菜果	度会中・3年			

男子	令和2年1月19日	12時30分スタート	広島市平和記念公園発着			
総合	第8位	2時間18分50秒	※三重県最高記録			
監督	真内 明(NTN)					
コーチ	山本 顕(宇治山田高) 松尾 政臣(四日市工高)					
区間	距離	名前	所属	記録	区間	通過
1区	(7K)	伊藤 秀虎	四日市工高・3年	20:18	26位	26位
2区	(3K)	倉本 晃羽	白子中・3年	8:35	8位	20位
3区	(8.5K)	西山 雄介	トヨタ自動車 ※主将	24:02	7位	14位
4区	(5K)	山中 秀真	四日市工高・3年	14:21	11位	9位
5区	(8.5K)	佐伯 陽生	伊賀白鳳高・3年	24:41	14位	9位
6区	(3K)	加世堂 懸	川越中・3年	9:15	42位	13位
7区	(13K)	塩澤 稀夕	東海大・3年	37:38	8位	8位
選手		川瀬翔矢	皇學館大・3年			
		永洞和季	伊賀白鳳高・3年			
		鈴木千翔	久保中・3年			

メインです。少年では強化指定校を中心に昨年度からの成果を自信に「預かった選手は絶対にもににする」という覚悟のもと責任を持って選手を育てる。少年B種目は全日中を成功させ、そのままの勢いで三重国体に入っていく。ターゲットの選手も絞られてきているので三重国体までの課題と取り組みをしっかりと確認しながら冬季2021年度を迎えたいと考えております。

三重国体が間近に迫ってくる中、大きな成果をあげられるよう頑張っていきたいと思えます。今後のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

**情報委員会**



**普及委員会**



日頃は普及委員会の活動に、ご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

「強化委員会との連携重視」「地区における普及活動の推進」「指導者の育成」の三本柱を重点目標

に掲げ、今年度も取り組みを進めてきました。

中でも「キッズアスリートin陸上教室」では、来年度以降、地区陸協主体の開催も意識しながら、更なる広がりを目指した取り組みとなりました。

また、8月のJAAFジュニアコーチ講習会、3月14日開催予定の三重県小学生指導者研修会等を通して、「小学生に対する望ましい指導方法と誤ったトレーニングがもたらす危険性について」、「発育発達段階に応じた小学生への具体的な指導について」というような指導者育成の観点から熱心に学び、意見を交流し、どこの地区においても、どこのクラブチームにおいても、基本的には同じ考え方もと子どもたちが活動できるように意思統一を図ることをめざしました。

来年度以降もたくさん子どもたちに夢を与え、陸上競技に対する意欲や興味・関心を高めるとともに、「選手の可能性の広がり」を大切に、息の長い選手の育成のために努力してまいりますので、今後ともご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

**技術委員会**



- ① 日本陸上競技連盟競技規則に従い、公式の競技会を開催し得る陸上競技場、および長距離走路ならびに競歩路の公認

検定作業を行う。

② 競技場の施設が、「公認陸上競技場および長距離走路ならびに競歩路規程」の各条項に基づき、競技の実施が可能かを確認し、もし不都合があれば管理者と折衝して整備の依頼をする。

③ 用器具が規格に合致しているかを確認する。

④ 競技会では、トラック、助走路、サークル、円弧、角度、着地場所等が正しく整備されているかを確認し、得点表、成績表、記録表が用意されていることを点検する責任を負う。

⑤ 競技進行中は、全般的に観察し、絶えず審判長や総務、関係部署と連携を図り協議を重ね、競技の円滑な進行を図る。

【競技場および長距離走路の公認終了期日】

- (1) 三重交通Gスポーツの杜伊勢 1種(クラス2) 2022年10月19日
- (2) 三重交通Gスポーツの杜伊勢(補助) 3種 2021年4月10日 3月検定予定
- (3) 三重交通Gスポーツの杜伊勢(投てき場) 2021年4月10日 3月検定予定
- (4) 四日市中央緑地(陸) 2種 改修中
- (5) 四日市ハーフマラソン 検定予定
- (6) A G F鈴鹿陸上競技場

**東京2020オリンピックマラソン代表内定！  
中村匡平選手がメダリスト！！**

東京オリンピックのマラソン

日本代表を選考するマラソングランドチャンピオンシップ(MGC)が2019年9月15日に行われました。そこで中村匡吾選手(富士通)が優勝し、マラソン男子日本代表に内定しました。

その後はMGCに向けて、

2018年9月のベルリンマラソン、2019年3月の東京マラソンで調整をし、ベルリンマラソンでは自己ベストの2時間08分16秒を記録し、順調な仕上がりを見せていました。

中村選手はその後のインタビューで東京オリンピック出場は大学時代から考えていたと語っています。大学卒業の2015年からMGC出場権獲得の2018年、そしてMGC本番の2019年と続きました。また、MGCレース中も設定選手の独走や順位を強く意識し牽制し合う状況。あまり感情を表に出さないと云われる中村選手ですが、冷静に自分を見つめ、それを基に計画をし、またその場での状況判断を落ち着いて行った結果の代表の座なのかもしれません。

2020年シーズンが始まります。より多くの三重県の選手が中村選手に続いてオリンピックの日本代表になることを期待します。また、中村選手のように各選手が目標に向かって取り組むことによってそれぞれの力が三重県の陸上競技の発展や2020三重全中、2021三重国体の成功へと繋がることを願います。

中村選手は四日市市出身で内中中学校から上野工業高校(現伊賀白鳳高校)へ進学しました。全国高校駅伝には3年連続で出場し、県予選会においては3年連続区間賞(3年時1区、2年時3区は未だ破られていない区間新記録)と活躍をしました。その後、大学駅伝の名門駒澤大学へと進学。大学3大駅伝(出雲、全日本、箱根)にも出場し、特に3、4年のときには区間賞を多数記録するなど、大学時代の活躍ぶりは各報道機関でも多く取り上げられました。卒業後は富士通に入社し、怪我に苦しむ時期もありましたが、2018年3月のびわ湖毎日マラソンにて日本人トップでゴールをし、MGC出場権を獲得す

MGC本番のレースは秋晴れのきれいな空の元、行われました。1位、2位の選手がオリンピック代表内定という条件からか、序盤から設楽悠太選手(HONDA)が2位以下を大きく離して独走しました。2位以下の集団は牽制し合いながら順位がころころと入れ替わりハラハラドキドキするレース展開でしたが、中村選手は冷静に2位集団に位置し、着々と順位を狙っていました。37、38km付近でずっと独走状態だった設楽選手に2位集団が追いつき、40km手前で中村選手がスパートをかけ単独1位になります。41km付近で大迫傑選手(Nike)に追い抜かれそうになりますが、ラストスパートをかけそのまま

トップでのゴールをし、東京オリンピック代表に内定しました。中村選手はその後のインタビューで東京オリンピック出場は大学時代から考えていたと語っています。大学卒業の2015年からMGC出場権獲得の2018年、そしてMGC本番の2019年と続きました。また、MGCレース中も設定選手の独走や順位を強く意識し牽制し合う状況。あまり感情を表に出さないと云われる中村選手ですが、冷静に自分を見つめ、それを基に計画をし、またその場での状況判断を落ち着いて行った結果の代表の座なのかもしれません。



- 3種 2023年3月30日
- (7)伊勢ハーフマラソン(ハーフ・10km・5km) 3月検定予定
- (8)メイハンフィールド陸上競技場 4種 2022年3月31日
- (9)三重松阪マラソン 3月検定予定

※競技場の新規公認及び継続の時、申請者は公認期間が切れる3か月前より、申請書を提出できます。尚、公認を廃止にする場合は、必ず廃止届を日本陸連に提出して下さい。公認期間は、5年間です。※各地区でシティマラソンの企画及び競技者が増加しています。国際大会や招待選手が走る場合、自転車計測でないと公認が認められません。長距離走路の作成や、新規陸上競技場を設置する場合は技術委員会までご相談下さい。

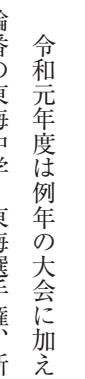


本年度の医事委員会の活動に、温かいご理解とご協力をいただき、深く御礼申し上げます。

本年度も、小学生から一般全ての年齢層の大会を対象に、新競技場を使用した大会での活動で、年間12大会延べ21日間、現場でのトレーナー・救護活動を行ってまいりました。また、年間4回開催しましたスキルアップ講座には、多くのトレーナーが参加し、テーピ

ング・コンディショニング等の知識・技術の向上を図ってまいりました。そのうち、今年度は新しくロードレースの救護活動を行い、中でも拠点を設けて救護を行う活動だけでなく、自転車等を活用した移動しながらレースの状況を監視し、救護にあたる活動を経験できたことは、これからの活動の幅や応用に生かせるものであったと思います。その機会をいただいた実行委員会方々に感謝申し上げます。

また、本年度も日本陸連より、より安全な熱中症対策の注意喚起と、選手の貧血症状に対して安易な薬剤の摂取について、ガイドラインとリーフレットが提示され、強い警告と使用に関して禁止する決定がありました。現在、陸上競技を指導する立場におられる皆様、特に対象となる年代以上の指導者の皆様は、貧血に関しての正しい知識を学んでいただき、安易なまたは勝利至上主義的な考えからの薬剤の使用は、後々選手の健康を損なうことにつながる可能性があります。選手は誰しも競技がたくさんあることをご承知いただきたく思います。選手は誰しも競技の一線から退いてからの人生の方が圧倒的に長く、その期間の健康まで奪う権利は誰にもないことをお忘れなきようお願いいたします。それから、練習中の事故や校外での練習で交通事故等に遭うケースが、本年度も他競技も含め本県で起こっています。各指導者の皆様方は、常日頃から練習での安全面の徹底はされていると思います。ただ、選手は練習に没頭しますと危険の予見力が下がってしまうのも事実ですので、悲しい事故を防ぐためにも、より一層安全に対する注意喚起をお願いします。



これからの、医事委員会の活動に、ご理解とご協力、そしてご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

令和元年度は例年の大会に加え、輪番の東海中学・東海選手権、新設のデンソーカップと多くの競技会を実施させていただきました。いづれも素晴らしい大会としていただきました。これも審判員皆様のご尽力のおかげと心より感謝申し上げます。令和二年度はいよいよ三重とこわか国体の前年あたり、準備の最終段階になります。夏には全日本中学校陸上競技選手権大会(三重

国体のリハーサル大会)を開催いたします。それに向けての準備もお願いしたいと思っております。社会環境の変化にともない審判員の確保も憂慮されます。公認審判員として、さらなる資質の向上をお願いするとともに仲間を増やしていただくことにもご協力ください。新しく陸上部の顧問になった方や、副顧問の方の審判登録と競技運営への参加をお願いいたします。クラブチームの指導者の方もお願いいたします。お願いばかりで申し訳ありませんが、何卒ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

2019年度 公認審判員数

審判種別	男	女	計
S級	41	1	42
A級	99	9	108
B級	279	105	384
合計	419	115	534



元号が平成から令和になり、初めての高校総体が沖縄県で開催されました。

今シーズンを振り返ってみますと、三重県からは48名の選手が東海大会を突破し全国高校総体に出場、全国大会という大舞台で華々しく活躍し、全国の陸上関係者や

応援者に勇気と感動を与えてくれました。全国大会初日、伊勢工業の山川君が、初日というプレッシャーを撥ね除け、男子ハンマー投で準優勝し県勢に勢いをつけてくれました。2日目では、男子100m出場の四日市工業の林君、棒高跳でも伊勢の松井君が共に準優勝という好成績を収めました。やり投で伊勢工業の中村君が4位、八種競技で皇學館の大井君が4位に入賞しました。また、女子の砲丸投では松阪商業の床辺さんが2年連続の6位に入賞、稲生の岩本さんも7位に入賞しました。大変素晴らしい結果でした。

3日目こそ入賞者はいませんが、みなさん最後まで健闘してくださいました。今回記録が思うように伸びなかった選手も、今後怪我や自身に打ち勝ち、大輪を咲かせてくれることを祈っています。

最終日には、稲生高校の三井康平君が円盤投で優勝を果たしました。また、同記録で宇治山田商業の鴨澤青海君が準優勝、走高跳で近大高専の本田君が3位に入賞し大会を締めくくってくれました。そして男子都道府県対抗では4位と昨年を上回る結果をあげてくれました。皆さん本当によく頑張ってくれたと思います。

高校駅伝でも健闘してくれました。男子の部では、四日市工業が平成15年以來の都大路への切符を手にし、見事に2時間3分50秒の

三重県高校新記録を樹立しました。伊賀白鳳も県大会では優勝でしなかつたものの、ブロック大会で見事に優勝し16年連続で全国大会に出場しました。女子の部では、3年ぶりに四日市商業が出場しました。

残念ながら入賞することができなかった選手もいますが、全国大会へ出場するということは決して容易なことではありません。見事全国大会への切符を勝ち取り、出場した選手の皆様にとつて、この経験は今後の人生の大きな財産となることと思えます。また、1・2年生で出場した選手は来シーズン、そして三重とこわか国体に向けてしっかりと力をつけていってほしいと思います。今後、誰がどのように活躍してくれるか楽しみであり、大いに期待しています。

中体連

JAAF

大阪全中において、男子2000

mの中山智貴さん(亀山中中部)が優勝、女子1500mの澤井風月さん(嬉野中)が第3位、女子800mの松本未空さん(平田野中)が第4位、女子砲丸投の坂山成さん(多気中)が第4位、女子4x100mRの小林玲那さん、

木下奈々花さん、廣村結さん、世古綾葉さん(伊勢港中)が第4位、女子100mの世古綾葉さん(伊勢港中)が第6位と6種目8名の選手が入賞を果たしてくれました。そして、全中駅伝において、

倉本晃羽さん(第1区間賞)、福田直瑛さん、平田凜太郎さん、篠崎大地さん、ヤマニハレオナルドさん、芝田翼さん(白子中)が第4位という結果を残してくれました。

また、中山智貴さん(亀山中中部)は男子100mにおいて10秒62の東海中学新記録ならびに三重県中学新記録を樹立してくれました。そして、男子3000mで倉本晃羽さん(白子中)、女子100mで世古綾葉さん(伊勢港中)、女子800mで松本未空さん(平田野中)、女子1500mで澤井風月さん(嬉野中)、女子4x100mRで伊勢港中チーム、女子三段跳で池山実侑さん(城田中)が三重県中学新記録を樹立

してくれました。地元三重県で行われた東海中学においても7種目の優勝をはじめ、多くの入賞があり、インパクトのある結果を残していただきました。

全国ジュニアオリンピックでは、残念ながら台風の接近により2日目を以降の競技が中止されましたが、5種目6名の入賞を果たすことができ、次年度の活躍が期待できる選手も多く出てきてくれたことを喜ばしく思います。

県強化練習会においても活気のある充実した練習ができ、来シーズンの活躍を大いに期待できるものとなりました。そしてU16ジュニア研修東海ブロック合宿では、4県の強い選手が集まる中選抜された40名の選手はとも刺激を受け、来年度の三重全中に向けて意識も高まったようです。

いよいよ2020年8月に開催される『三重全中』に向けて、新体制での強化活動が開始して3年が経とうとしています。『2020 MIE PRIDE』を合言葉に、おもてなし大会ではなく、地元三重の意地とプライドにかけて戦おうという強い思いを胸に、強化スタッフと顧問、選手が三位一体となって頑張っています。なお、今年度の中学3年生は翌年の2021三重国体少年B種目での活躍が期待されることも重要な

り、(一財)三重陸上競技協会の全面的なご支援をいただき強化・育成を進めています。選手はもち

ろん指導者としても有意義で価値のある練習会であり、継続していくことで必ず結果につながることを信じています。2月に開催した2000人練習会では、三重県中の陸上競技に関わる全ての中学生が競技場に集結し、大会大成功に向けてのモチベーションを高め、充実した練習会となりました。参加者の中から三重全中本番で競技者として活躍する選手が多く出てくれることをとても楽しみにしています。また、競技補助員や協力補助員として大会運営に関わってくれる生徒も必要ですので、手段は違っても大会大成功という同じ目標に向かって頑張ってくれ

ることを願っています。中体連陸上競技専門部としては2020三重全中に向けて具体的な数値目標を掲げています。①各校1人以上の選手が三重全中出場

②各地区で1人以上の入賞者を輩出 ③三重県選手団で50人以上の参加標準記録突破者を輩出 ④全個人種目で参加標準記録突破者を輩出 ⑤出場者数に対する入賞率を15〜20%へ引き上げ ⑥男女総得点30点以上の獲得 ⑦県別対抗順位10位以上の確保 ⑧全中入賞者10人以上の輩出です。

これらの目標設定は簡単なものではありません。また、今までの三重県においてこれら全てを達成したことはありません。だからこそあえて高い目標を設定し、33年ぶりに三重県伊勢市で開催される

三重全中において地元三重の選手たちが輝き、活躍することを願って強化活動を進めていきたいと思っています。

大会運営に関しても、順調に準備を進めています。今回の三重全中では選手ファーストを第一に、関係者の安心安全を最優先に進めていきたいと考えています。具体的な取り組みとして、①雨天走路に都道府県別選手待機場所を設置

②補助競技場バックストレート上に大型テント(70m)を設置※全中史上初 ③補助競技場に都道府県選手待機場所を設置が挙げられます。そして、参加制限が一人1種目(リレーを除く)となり、タイムテーブル等を工夫することで選手の負担を軽減することができると予想されます。

また、会場周辺の交通対策や観光客対策、駅からの輸送や駐車場対策等の面において、伊勢市にも多大なるご支援をいただいております。選手はもちろん大会に関わる全ての方の安心安全を第一に考えた大会を目指します。

以上に挙げたのはほんの一例ですが、今までにない三重全中を目指し、地元三重の選手が最大限輝き、全国からの選手も思い出として残るような大会にしたいと思っています。

審判員の皆様には多大なご苦労をおかけすることになりますが、ご協力をお願いしたいと思います。

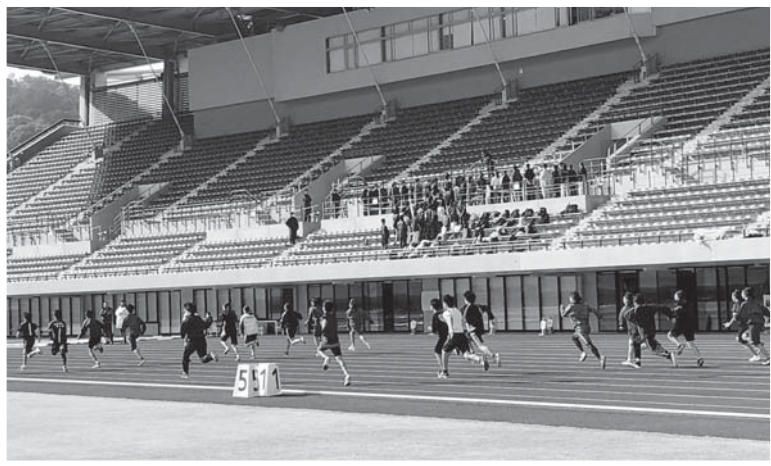


空海津洲高が願った汗の輝き

令和2年度全国中学校体育大会スローガン



三重全中記念御朱印



2月8日(土)に三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場において「2000人練習会」と銘打って、県内全中学生を対象とした強化練習会が行われました。過去に例を見ない規模として注目されたこの練習会ですが、県内全地区から中学生が参加し、中体連強化部コーチ陣の指導の下、三重全中に向けて汗を流しました。

競技場内17ヶ所に分かれて20分間のトレーニングを実施し、各練習箇所をローテーションしながら計9セット行いました。1グループの生徒数は約80名で、申し込みされた段階で、事前にグループを割り振り、大人数にもかかわらず当日は混乱なく練習に入っていくことができました。練習内容に関しても、各コーチが事前に打ち合わせをし、多様なトレーニングが実施できるように工夫しました。

今までは強化指定選手中心の練習会が多かったため、参加できなかった選手も多くいましたが、練習や昼食などのグループ内での活動を通して、他校や他地区の生徒と仲良く談笑する場面も多くみられ、この練習会を通して、交友関係を広げる機会となり、活気あふれた練習会となりました。三重全中を間近に控え、「ALLMIE」をみんなが再確認し、自県開催に向けて盛り上がるの機運が高まった1日となりました。参加生徒は1日中、身体を動かし、疲労困憊ではありましたが、彼らの言葉や感想から達成感や充実感にあふれていた様子を見ると本練習会の開催の意義は十分にあったように思われます。

また、開会式には、三重とこわか国体のマスコットキャラクター『とこまるくん』が国体PRとして登場し、参加生徒への国体記念ボールペンのプレゼントもありました。今年2020年の三重全中を成功させ、2021年三重国体へと橋渡しができるように「ALLMIE」で取り組んでいきたいと思っています。

# 第13回 美し国三重市町対抗駅伝

令和2年2月16日(日) 8:45スタート  
県庁(津市)から三重交通Gスポーツの杜伊勢(伊勢市)まで 42.195km 10区間

## ■ 市の部

- 1. 鈴鹿市 2:15:25 9年ぶり3回目
- 2. 桑名市 2:19:37
- 3. いなべ市 2:20:10
- 4. 伊勢市 2:22:07
- 5. 四日市市 2:22:20
- 6. 松阪市 2:22:36
- 7. 津市 2:24:1
- 8. 伊賀市 2:25:31



とこわか国体・とこわか大会イメージソング「未来に響け」を野田愛実さんが歌唱

## ■ 区間賞

- 1区 1.28km 小学生女子 内田 里恋 (桑名市) 4:01
- 2区 1.85km 小学生男子 小林 勇斗 (伊勢市) 5:58
- 3区 3.83km 中学生女子 澤井 風月 (松阪市) 12:43
- 4区 5.58km 中学生男子 倉本 晃羽 (鈴鹿市) 17:19
- ◎区間新
- 5区 4.60km 40歳以上男子 竹中 泰知 (伊賀市) 13:40
- 6区 6.36km ジュニア男子 佐伯 陽生 (四日市市) 18:29
- 7区 2.89km 一般女子 小泉 直子 (いなべ市) 9:27
- 8区 3.43km 20歳以上女子 矢田 みくに (いなべ市) 11:20
- 9区 5.45km ジュニア女子 小笠原 朱里 (いなべ市) 17:48
- ◎区間新
- 10区 6.925km 20歳以上男子 小森 稜太 (いなべ市) 20:31

## ■ 町の部

- 1. 菰野町 2:20:51 6年ぶり7回目
- 2. 川越町 2:24:33
- 3. 東員町 2:25:22
- 4. 紀北町 2:30:42
- 5. 多気町 2:31:06
- 6. 朝日町 2:35:18
- 7. 明和町 2:36:52
- 8. 玉城町 2:38:59



とこわか国体・とこわか大会開催600日前記念イベント

## ■ 区間賞

- 1区 1.28km 小学生女子 森 絢理 (菰野町) 3:59
- 2区 1.85km 小学生男子 佐々木 勝紀 (菰野町) 6:03
- 3区 3.83km 中学生女子 栢田 日菜果 (度会町) 13:34
- 4区 5.58km 中学生男子 加世堂 懸 (川越町) 18:20
- 5区 4.60km 40歳以上男子 星野 友成 (川越町) 14:20
- ◎区間新
- 6区 6.36km ジュニア男子 小林 篤貴 (東員町) 18:45
- 7区 2.89km 一般女子 松田 萌加 (東員町) 10:29
- 8区 3.43km 20歳以上女子 藤田 愛子 (菰野町) 11:26
- 9区 5.45km ジュニア女子 藤本 直 (菰野町) 19:58
- 10区 6.925km 20歳以上男子 坂田 昌駿 (菰野町) 20:45

## ■ 敢闘賞

(前回大会よりタイムの上げ幅が伸長したチーム)  
尾鷲市、熊野市、大台町、大紀町、南伊勢町

## ■ ベスト記録賞

(過去大会のベスト記録を上回ったチーム)  
鈴鹿市、東員町



9年ぶり3回目の優勝の鈴鹿市



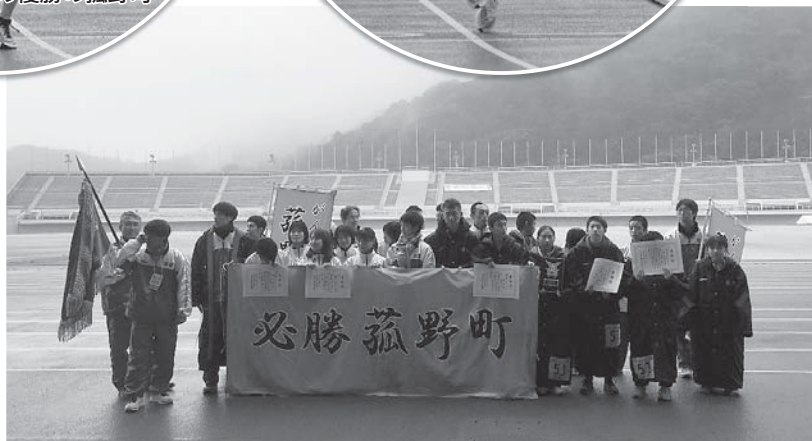
6年ぶり7回目の優勝の菰野町



3連覇を逃した総合2位の桑名市



市の部 優勝 鈴鹿市



町の部 優勝 菰野町